

<今回>201回目 2016年12月26(月)15時~19時 1503号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」75P 三 虚像と実像 より

<前回>200回目(16-12-2) 出席者9名

資料 16-12-02-1) 前回のまとめ(清水)

-2) 弘仁私記と太安麻呂、問答(清水)

-3) 奥野正男の邪馬台国の鏡論紹介(清水)

-4) 筑紫野の前畑遺跡から土壘発掘(新聞記事)

-5) 来年4月までの予定表(清水)

A 報告

電源工事が終わり暖房は効いた。200回記念だが参加者少なく、今回は忘年会とする。

津多家で10名を予約していたが会食は7名、16489円(2000・7) —2549円

B 資料 -2) 弘仁私記と太安麻呂 黒板勝美氏の分厚い(378頁A4版)、弘仁私記の校本(近代リアリズム)と平安貴族の素朴な質問を神野志隆光氏の本「日本とはなにか」—国号の意味と歴史—から、日本書紀に対する基本的質問を紹介。-3) 邪馬台国の鏡要約 考古学者奥野氏の三角縁神獣鏡国内生産説を古田説と同じではないかと紹介。-4) 新聞記事より筑紫野市の教育委員会発表の前畑遺跡の土壘発掘を紹介。東京古田会の平松健氏の3, 4日の現地説明会に一緒に行かないかという呼びかけを紹介。尾根道1.5mに削り、底は13.5mの巨大さ、版築工法と書かれていた。現地発表資料をみたいもの。考古学者の羅城構想が高山氏より山田宗睦日本書紀講座の資料から紹介。-5) 来年4月までの予定表を配布。

C 読書「邪馬壹国の論理」P66 紹熙本の優秀性 から

1) 榎氏が非とされた論点を整理する。

1棺槨問題 扶余と東沃沮は槨有て棺無し、韓と倭人は棺有て槨無しである。半島の北部と南部・北部九州の差を示している。東沃沮が半端になる。静嘉堂文庫の浅慮な改訂である。

2欲不行問題 史記の用例は欲不行であると論じている。これも静嘉堂文庫の版本の浅慮な改訂である。

3会稽東冶が正しい。会稽東冶は特定の地名である(台湾の対岸に相当する)。永安3年(260年)の分郡で短期間。陳寿の事実による慎重な行文を范曄は机上で安易に造文している。(東冶と)

4会稽東冶の東の表現は自然である。東冶は以前の史料(魏略)にあったろうという推論は安易な逃げ道である。この不自然さを范曄は三国志にはない大較という語をあたらしく入れて不自然を補っている。

5景初2年問題 古田は劉劭の「魏朝の諸行事停止」を拡大解釈していると論難していることに対して、更に2例を追加して反論している。古田氏が深く中国史料を読みこんでいる証拠である。

6対海国問題 ①二つの言語世界の境界に存在する土地は2つの名前を持っている。②対海国(紹熙本)と対馬国(紹興本)の改訂はどちらが先か。当時の常識の対馬国をみしらぬ対海国に直すことはあり得ない。これをもってしても紹熙本の方が古い事を表している。有槨無棺を有棺無槨に直したり、欲不行を不欲行としたり、張元済でも濊南伝を濊伝に直したりしている。近代リアリズム以前の中国版刻史の伝統に対海—対馬の変化の秘密があるとしている。

次回日程 2017-1-13(金) 16時~18時 1503号室

—30(月) 15時~18時 1503号室

—2-10(金) 15時~18時 601号室

—20(月) 15時~18時 603号室